

Doc. 2487 Evid.

Folder 8

(50)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2487 - 2488

24 July 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Investigations Re Trade of French Indo-China by East Asia Research Institute

Date: (see below) Original  Copy  Language: Japanese

Has it been translated? Yes  No   
Has it been photostated? Yes  No

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: East Asia Research Institute, TOKYO

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Aggression, Indo-China; Preparation for War, Economic

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Doc. No. 2487

Investigations re Trade of French Indo-China, 10 Sep 41.  
(A study of potentialities of importation of various goods, mainly textiles, by French Indo-China ie French Indo-China's possibilities as a market for Japanese manufactured textiles.)

Doc. No. 2488

Investigations re Trade of French Indo-China 25 May 42.  
(A study of the export capability, mainly pertaining to rice, of French Indo-China, of rice producing areas there, and of potential markets.

Analyst: 2d Lt Blumhagen

Doc. Nos. 2487 - 2488

#2487

Proj. No. -	
S.A. No. 10044-D-I	
Sack No. 12	
Item No. 7	

Lumi SASAKI

Investigations regarding the Trade of French-

Indo-China

by East Asia Research Institute

Sep. 10, 1941

I Investigation regarding Importation Capability of

French-Indo-China

1. Importance of Importation Capability of French-

Indo-China

2. Total Importation Capability of French-Indo-China

3. Ratio of Importation into French-Indo-China

4. Importation Capability Classified by Staple

Commodities

II Importation Capability of Textiles into French-

Indo - China

1. Importance of Textiles Imported into French-

Indo - China

2. Importation Capability of Cotton Fabrics

3. Importation Capability of Rayon Fabrics

4. Importation Capability of Jute Fabrics

Appendix

I List of Importation of Cotton Fabrics in French-

Indo - China

II List of Importation of Rayon Fabrics in French-Indo-

China

III List of Importation of Jute Fabrics in French-Indo-China

IV List of Importation of Silk Fabrics in French-Indo-China

V List of Importation of Mixed Fabrics in French-Indo-China

VI List of Importation of Hemp Fabrics in French-Indo-China

VII List of Importation of Woolen Fabrics in French-Indo-China

Proj. No. \_\_\_\_\_  
S. A. No. 10044-D-  
Sack No. 12  
Item No. 1-6

51

東  
亞  
研  
究  
所

佛領印度支那貿易に關する調査（其一）

E-5320

資料丁第二十號C

（昭和十六年九月印刷）

5

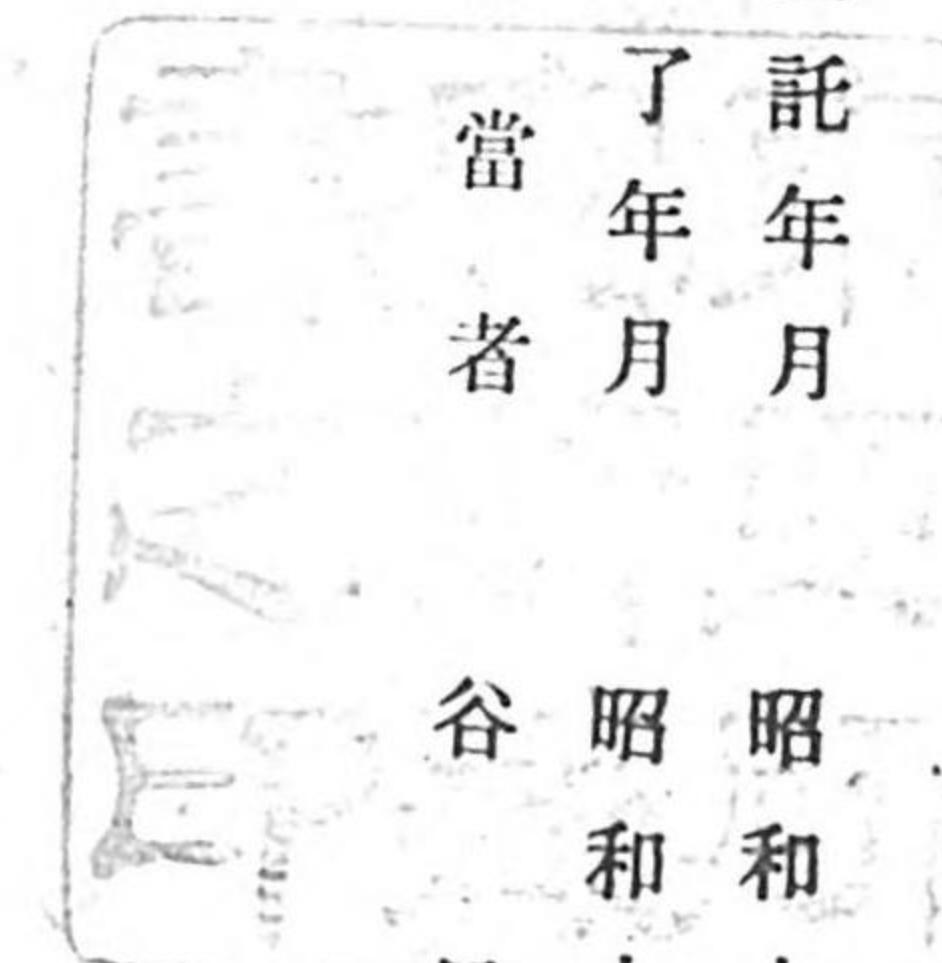
521

E

5320

68105

委託年月 昭和十六年四月  
 完了年月 昭和十七年三月  
 搞當者 谷口吉彦



佛領印度支那の貿易に關する調査（其一）

- 第一、佛領印度支那の對外輸入力に關する調査
- 一、佛印輸入力の重要性
- 二、佛印の總輸入力
- 三、佛印輸入力の各國への分配
- 四、主要商品別の輸入力

第二、佛領印度支那に於ける織物類の輸入力

一、佛印輸入における織物類の重要性	二三
二、綿織物の輸入力	二七
三、人絹織物の輸入力	二九
四、ジユート織物の輸入力	三一
附錄、第一、佛印の綿織物輸入表	三四
第二、佛印の人絹織物輸入表	四九
第三、佛印のジユート織物輸入表	五五
第四、佛印の交織織物輸入表	五六
第五、佛印の絹織物輸入表	六六
第六、佛印の麻織物輸入表	七〇
第七、佛印の毛織物輸入表	七六

佛印の對外輸入力に關する調査

一、佛印輸入力の重要性

佛印と吾國との間に成立した貿易協定が、次第にその實効を現はすに從つて、吾國の佛印よりの輸入は増加する筈である。米の輸入をも合算すれば、恐らく一億數千萬圓の輸入をもたらす筈であり、これは物資不足の現状より見て、吾國にとり極めて必要なことである。然るにこの巨額の輸入に對しては、結局において吾國の輸出をもつて決済せねばならぬ。なるほど米の輸入については、一ヶ年の支拂猶豫を認められてゐる様ではあるが、併し之も一ヶ年後には、結局は吾國の商品を輸出して支拂はねばならぬ。また佛印に對する支拂は、必ずしも佛印への輸出をもつて支拂ふを要せず、他の第三國への輸出手取金をもつて支拂ふことも不可能ではないが、併し出來うる限り佛印輸出をもつてすべきことは、歐洲大戰の影響をうけて輸入の減退して

ある佛印側にとつても必要である。即ち佛印よりの輸入一億數千萬圓に對しては、ほゞ之に相當する巨額の輸出をもつて支拂はねばならぬこととなる。

然るに最近における吾國の佛印への輸出は、左表に示すが如く僅かに數百萬圓の少額に過ぎないから、この機會において吾國の佛印輸出は、飛躍的に増大せねばならぬ筈である。

第一表 佛印への輸出總額（大藏省、外國貿易月表）

昭和十一年（一九三五）	四、〇二〇、八八四圓
昭和十二年（一九三六）	四、六九七、二四五圓
昭和十三年（一九三八）	四、六二三、六七八圓
昭和十四年（一九三九）	三、一八一、六六七圓
昭和十五年（一九四〇）	一、九八一、三五五圓

然らば吾國は佛印に對して、如何なる商品を如何なる程度に輸出することが出来るか、これは吾國の事情または希望によつて決定される

問題ではなく、寧ろ主として佛印側の事情に従つて、先方の必要とする商品が、必要なる程度に輸入されるものであるから、問題は佛印の輸入力如何に依存するわけである。むろん佛印の輸入力は、決して固定的のものにめらず、第一に、佛印の一般經濟狀態の如何により、第二に、佛印の輸出貿易の如何により、常に變動するものではあるが、併し一般經濟にしろ輸出貿易にしろ、決して最近の現實狀態から急速に飛躍しうるものではない。この意味において、佛印の最近における現實の輸入力を検討することは、近き將來における吾國の輸出力を検討する最も客觀的な方法として、重要な意味を有するものと考へられる。たとひ佛印協定において如何なる貿易數量の協定を行つたとしても、右の現實的根據を離れては、その協定は實行されるものではなく、また佛印協定の内容も、右の現實的根據によつて、事實上に訂正されて行くべき筈である。この意味において、茲では佛印貿易に關する調査のうち、まづその輸入貿易を全面的に検討して、最近におけるその輸入力を確か

めんとするものである。

## 二、佛印の總輸入力

いま第一次世界戦争後の一九二〇年から、第二次世界戦争の勃發した一九三九年に至る最近の二十年間ににおける佛印輸入の總額および數量について、その發展の跡を辿る時は、第二表の如き結果を示してゐる。

第二表 佛印總輸入力の發展（印度支那統計年報）  
年次 輸入金額（百萬法），輸入數量（千噸）

一九二〇年	一、五九五
一九二一年	八九七
一九二二年	八八一
一九二三年	一、五〇〇
一九二四年	一、四〇〇
一九二五年	一、八〇〇
一九二六年	二、九〇〇
一九二七年	三、七〇〇
一九二八年	二、五〇〇
一九二九年	二、六〇〇
一九三〇年	一、八〇〇
一九三一年	一、二九〇
一九三二年	九六八
一九三三年	九一〇
一九三四年	九〇一
一九三五年	九七五
一九三六年	一、五六二
一九三七年	一、五四〇
一九三八年	四五九

一九二五年	一、八〇〇	四一八
一九二六年	二、九〇〇	五〇三
一九二七年	三、七〇〇	五二九
一九二八年	二、五〇〇	五四〇
一九二九年	二、六〇〇	五二一
一九三〇年	一、八〇〇	五四四
一九三一年	一、二九〇	三五一
一九三二年	九六八	三八三
一九三三年	九一〇	三三三
一九三四年	九〇一	三八三
一九三五年	九七五	四四四
一九三六年	一、五六二	四〇二
一九三七年	一、五四〇	五二六
一九三八年	四五九	四八九

一九三九年 二、三八二

五八七

之によりて明らかなる如く、佛印の總輸入力もまた、年によつて著しき動搖を示してゐるが、便宜上これを沈滯期と興隆期とに分つならば、

第一期（一九二〇—一九二四年）は沈滯期を示して、その五ヶ年平均額十二億五千萬法に過ぎず、最低は九億法以下に落ち込んでゐる。第二期（一九二五—一九二九年）は興隆期を示して、五ヶ年平均額二十五億法に達して第一期の倍額となり、最高二十九億法を示して、

佛印輸入の記録を残してゐる。

第三期（一九三〇—一九三四年）は再び沈滯期に入りて五ヶ年平均十一億七千萬法、最低九億法程度に落ちてゐる。

第四期（一九三五—一九三九年）に入つて再び興隆期を迎へ、五ヶ年平均十五億五千萬法となり、最高二十四億法に近く、再び前の全盛期に迫らんとする勢にある。

かくの如き輸入力の消長は、第一に、世界經濟の一般的情勢により、

第二に佛印經濟の景氣段階により、第三にこれらの結果としての輸出力の消長により、種々の原因より來ること言ふまでもない。今との諸原因を検討することは姑らく別問題として、何れにせよ、從來の佛印輸入力は、最低時に於いて約十億法未滿、最高時に於いて約三十億法程度であり、最近の傾向においては、一九三〇年の世界恐慌の影響をうけて一たん最低に落ち込んだものが、一九三五年以來は恢復の一途を辿つて向上し、最近では漸くその最高額に向つて進みつゝあることが看取される。

かくの如き佛印の總輸入力が、今後において果して如何なる推移を示すであらうかは、主として佛印の經濟開發に伴ふ經濟的發展の進度如何に依存する問題であつて、溢りに憶測するを許されないが、たゞ現在における人口一人當りの輸入力を、他の諸國と比較する時は、左表に示すが如く、佛印は最低を示してゐる。

第三表

人口一人當り輸入力の比較

國名 輸入總額（圓換算千圓） 人口千人 一人當り輸入額  
 佛印（一九三九年） 二三八、二二六  
 泰國（一九三九年） 一九二、三二六 一四、九七六 一二〇・二二  
 蘭印（一九三八年） 一、〇三八、七二〇 六七、四〇〇 一五・四一  
 滿洲國（一九三八年） 一、二七四、七四八 三六、九三三 三四・五一  
 日本（一九三九年） 二、九一七、六六六 七二、八七五 四〇・〇四  
 菲律賓（一九三九年） 二、九一七、六六六  
 この事實は即ち佛印輸入力の比較的に停滞することを示し、これは主として從來の佛印開發の停滯性に原因せるものと認められる。従つて將來における經濟開發の進むと共に、輸入力増進の餘地は、大いに残されてゐることを示すものである。

### 三、佛印輸入力の各國への分配

併しながら吾國にとつての問題は、佛印の總輸入力如何の問題ではなく、吾國よりの輸入力如何が問題の中心である。これを検討するた

めには、從來の貿易において、佛印の有する總輸入力が、その輸入先の諸國の間に、如何に分配されてゐたかを先づ検討せねばならぬ。左表は即ちその結果である。

第四表 佛印輸入額の各國への分配（印度支那貿易統計月報）

輸入先	一九三七年	一九三八年	一九三九年
佛印	八三五、五四六	一、〇七、九二八	三三七、六五四
香港	步合	五三・六	五〇・六
印度	價額	一三五、四四一	一四三、四二九
支那	價額	八・六	一六六、五一五
歩合	四三・七二五	五五、四二九	七・〇
印度	價額	二・八	五・〇
支那	價額	一四、五〇三	一四一、九八六
歩合	七・〇	一〇六、二五七	四・四
蘭領印度	價額	六八、六一九	八四、五五七
歩合	四・四	一〇四、五二〇	四・三

	シンガ ボル	價額 歩合	五八、〇七二 千法	五七、七八八 千法	一〇〇、五一五 千法
北米 合衆國	價額 歩合	五二、〇九二 三・七%	三・七	二・九%	四・一%
英 國	價額 歩合	九七、八六三 三・三	五・〇	九九、三六四 四・一	
アルジ ニア	價額 歩合	三一、〇四二 一・九	三一、〇四二 二・一	三九、四七〇 二・〇	
泰 國	價額 歩合	三三、三七三 一・九	三三、三七三 二・〇	六二、四三三 二・〇	
日本	價額 歩合	四八、二六二 三・一	三五、一二五 二・一	三六、〇二三 一・八	
輸入總額	價額 歩合	一、九四七、三五六 一・九四七、三五六	一、九四七、三五六 一・九四七、三五六	一、九四七、三五六 一・九四七、三五六	
	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	

この表によつて佛印輸入の最も著しい特徴が看取される。即ちその輸入の過半（五〇%乃至五六%）は、フランス本國よりの輸入をもつて占められ、他の輸入先の諸國は、殆んど重要な地位を占めてゐないと言ふ事實である。そのうち比較的に重要なのは香港および支那上りの輸入であるが、それさへ僅かに七%程度に過ぎず、それ以下の諸國は何れも殆んど僅少の輸入を分擔しつゝあるに過ぎない。即ち佛印輸入はフランス本國の獨占とは言へないまでも、最も顯著な集中性において、本國貿易の優位を保持しつゝある。

佛印輸入における佛本國の優位に對比して、吾國はまた餘りにも劣勢であり、前表にも明らかな如く、僅かに佛印輸入の三%以下を占めるに過ぎず、而かも最近三ヶ年において、この割合は著しく減退しつゝあつた。而して斯くの如き佛本國と吾國との地位は、過去久しきに亘つて維持した一般的傾向である。いま第一次世界戰爭前より最近に至る累年の佛印輸入における佛本國および日本の占むる比率を左表

に示す。

第五表 佛印輸入における佛本國と日本（印度支那統計年報に  
より算出）

年 次	佛本國より輸入の比率	日本より輸入の比率
一九一三年	四三・八%	一・九%
一九一四年	四〇・〇	一・九
一九一五年	二六・五	一・一
一九一六年	二四・〇	二・〇
一九一七年	二五・〇	五・五
一九一八年	一一・四	一・一
一九一九年	一五・〇	一・〇
一九二〇年	二六・一	四・三
一九二一年	三〇・二	二・四
一九二二年	四〇・一	一・三
一九二三年	五〇・〇	七・七
一九二四年	五一・四	一・四
一九二五年	五四・〇	一・四
一九二六年	五一・一	一・四
一九二七年	五〇・四	一・四
一九二八年	四五・五	一・四
一九二九年	四五・六	一・四
一九三〇年	四五・六	一・四
一九三一年	四五・九	一・四
一九三二年	四五・二	一・四
一九三三年	四五・六	一・四
一九三四年	四五・九	一・四
一九三五年	四五・四	一・四
一九三六年	四五・四	一・四
一九三七年	四五・四	一・四

一九三八年 五〇・六 二・八  
一九三九年 五六・〇 一・六

この表によりて見る時は、佛本國および吾國の今日の地位は、すでに第一次世界戦争前より引續き現はれてゐる一般的傾向であることがわかる。たゞ茲に注意すべき一つの例外は、一九一五年より一九二〇年に至る期間、即ち第一次世界戦争およびその後においては、佛本国よりの輸入は著しく減退して、最低一一・四〇（一九一八年）にまで落ち込んでゐる點にある。この期間における吾國よりの輸入は、反対に稍稍増進はしてゐるが、併し最高四・三〇（一九一八年）に過ぎず、佛本國の減退を補ふには遙かに及ばない。

佛印協定の成果について姑らく別問題として、かりにこの協定が存在しないとしても、今次世界戦争の佛印に及ぼす影響は、大體において第一次の場合と同じく、佛本國よりの輸入の減退とならざるを得ない。之に對して何れの外國が之に取つて代るかは、重要な問題である

が、第一次大戰の場合は、統計上では香港よりの輸入をもつて之に充てたことが判る。（左表参照）

第六表 第一次世界戦争と佛印輸入（印度支那統計年報により作成）

	香港よりの輸入	佛本國よりの輸入	日本よりの輸入
一九一三年	二七・八%	四三・八%	一・九%
一九一四年	二三・八	四〇・〇	一・九
一九一五年	三四・〇	二六・五	一・一
一九一六年	三二・九	二四・〇	二・五
一九一七年	三九・一	二一・四	三・〇
一九一八年	三四・七	一五・〇	四・三
一九一九年	三〇・九	二六・一	二・四
一九二〇年	三四・一	三〇・二	一・四
一九二一年	三〇・五	二・三	二・三
一九二二年	二八・〇	四〇・一	〇・七

一九二三年 二一。一% 五〇。五% 一。一%

而して右の香港よりの輸入のうち、相當の部分は吾國よりの再輸出の結果に過ぎないことは明らかであるから、實質的には佛本國に代つて或部分は吾國よりの輸入の進出したことは明らかである。

今次の世界戦争の影響としては、香港の地位における變化と、佛印協定の成立した結果として、佛本國よりの輸入の減退は、吾國よりの直接輸入の増大によつて、補はねばならぬ筈であるが、併し統計資料の得られる範囲では、まだそれ程の著しい變化は現はれてゐない。左表は開戦第二年の一九四〇年（一月——七月）における各國の佛印への輸入比率を示すものである。

第七表 第二次世界戦争と佛印輸入（印度支那貿易統計月報による算出）

	一九四〇年（一月——七月）	一九三九年に比増減
フランス	七三三、七八五千法	四七。一%
北米合衆國	一五一、〇九二	九。七
オランダ	一五〇、二九四	九。六
英領印度	八九、九一九	五。八
蘭領印度	八六、六五三	五。六
シンガポール	八二、一〇二	四。三
支那	七六、一九二	一。七
他の印度	二七、二七六	一。七
アルゼンチン	二六、五四〇	一。七
英國	二四、五九五	一。六
オランダ	二一、〇一七	一。五
日本	一三、四六五	〇。八
	減	〇。八

之によれば佛本國からの輸入減退は、主として北米合衆國および香港よりの輸入増によつて補はれ、吾國は却つて減退を示してゐる。固より之は開戦後一年足らずの期間における變化に過ぎないが、何れに

せよ、北米合衆國の進出は、最も警戒を要する新たな現象と言はねばならぬ。

#### 四・主要商品別の輸入力

佛印輸入力の問題を吾國の佛印への輸出の問題として見る場合には、たゞにその總輸入力または輸入先に止まらず、進んで商品別の輸入力を検討せねばならぬ。蓋し佛印がたどひ如何に豊富な輸入力を有つてゐたとしても、その輸入商品が吾國の輸出し得ざるものであるならば、それは吾國にとつては全く無意味であるからである。

第八表 主要商品類別の輸入力（印度支那貿易統計月表により算出）

	一九三七年	一九三八年	一九三九年
織物類	三七〇、六九四 千法	四二七、〇七一 千法	五三六、〇〇六 千法
金屬加工品	一六五、八三一 千法	二二六、九四九 千法	二八七、一七三 千法
金屬類	一〇〇.五 千法	一一〇.六 千法	一二〇.〇 千法
土・石及 礦物性燃料	九六、二六六 千法	一三三、三一三 千法	二一九、九〇六 千法
各種絲類	八〇〇 千法	九〇〇 千法	一五三、九八八 千法
植民地產 食料品	七四、八五二 千法	九七、三三一 千法	一一八、七七七 千法
植物纖維	四〇.七 千法	六〇.二 千法	六〇.四 千法
加工用	七六、六三五 千法	九五、二五七 千法	一〇〇、七六二 千法
	四〇.九 千法	四〇.八 千法	四〇.二 千法
	五七、九五一 千法	八二、一〇二 千法	一〇八、九九七 千法
	三〇.七 千法	四〇.二 千法	四〇.五 千法

紙及同製品	價額	六五、四四二千法	七一、一二二千法	七七、〇〇二千法
化學製品	價額	四五、九〇四	四〇、一%	三、三〇六%
澱粉質食料品	價額	四四、三一三	四八、三七一	六六、六三〇
右 合計	價額	六四、六九四	二〇、四	二、七
	比率	一、一三五、六〇九	二、八	三、〇三
	比率	一、四二七、四〇八	七二〇、二	二、〇七
	比率	一、七三四、五六〇	七一〇、〇	七一〇、二
	比率	一、一三五、六〇九	七一〇、〇	七一〇、二

右の十種商品をもつて全輸入の七二%を占めてゐるから、佛印輸入は相當に大なる集中性をもつてゐる。而かもその中の約三分の一、即ち全輸入の二二%程度は、織物類をもつて占められ、これが常に佛印輸入の首位を占めてゐる。その絶對額は前表に示すが如く、最近では五億法以上に達し、而かも連年累増の傾向にある。

織物類に次ぐものは、金屬加工品・金屬類等であるが、これ等は何

れも全輸入の一〇%程度に過ぎず、織物類の半額を占めるに過ぎない。それ以下の商品類は大體全輸入の五%程度またはそれ以下に過ぎず、多數の商品に分散されてゐる。

以上の検討によつて明らかなる如く、佛印輸入力の重點は織物類にある。而かも之は吾國の輸出力の首位を占めるものであるから、こゝに重點をおいて、吾國の佛印輸出を促進せねばならぬことは言ふまでもない。然るにこの織物類の輸入が、從來いかなる輸入先より行はれてゐたかと言ふに、次表によりて明らかなる如く、その七〇%以上は佛本國より來り、吾國の如きは殆んど言ふに足りない。

第九表 佛印織物類の輸入先（印度支那貿易統計月報により算出）

印度	價額	一九三七年	一九三八年	一九三九年
フランス	價額	二七六、九六九千法	三二六、四三八千法	三七二、五五九千法
印度	比率	七四、六%	七六、三%	六九、五%
印 度	比率	二一、二六五	四〇、三二八	七六、一八六
印 度	比率	五・七	九・四	一四・二

シンガ  
ボール

價額  
比率

三二、六六二 千法

三二、四五〇 千法

五五、六四八 千法

支那	日本	價額	比率
八、〇八二	一一、一二四	五、二一%	一〇・四%
二・二	二・二	九、三四〇	
五、八三二	三、一五一	一、二九二	
一、六	〇・七	〇・七	
		〇・二	

八、八〇%  
五、二一%

九、三四〇

一、二九二

〇・七

〇・二

かくの如き結果は、言ふまでもなく佛印關稅の障壁によるものであ  
り、佛印協定の結果として、この障壁の大部分が撤回されたとすれば、  
先づ織物類の進出を中心て展開さるべき筈である。その評細な検討は、  
商品別輸入力を個別的に調査すべき別論にゆづり、こゝではたゞ以上の  
の全般的検討に止めておく。

以上

佛領印度支那における織物類の輸入力

二、佛印輸入における織物類の重要性

佛印協定の成立に伴つて、吾國は米その他の必要な國防資源を佛  
印より輸入することとなり、之を支拂ふためには、佛印への輸出を急  
速に増進せねばならぬ事情にあるが、然らば吾國は如何なる商品を如  
何なる程度に輸出することが出来るか、逆に言へば、佛印は如何なる  
商品を如何なる程度に輸入することが出来るか、この問題を全般的に  
検討することは、すでに別編において試みた所であるから、こゝでは  
進んで特にその中の最も重要な織物類の輸入につき、更に詳細なる  
検討を加へんとするものである。

織物類は佛印輸入品中の首位を占め、一九三九年には輸入總額二十  
三億八千二百万法のうち、織物類は五億三千六百万法に達し二二%を  
占めてゐる。而かも從來はその七〇%までは佛本國より輸入されてゐ

たものである。他方に吾國の輸出能力より見るも、今日の如き戰時經濟においても、織物類はなほ多大の輸出余力をもつてゐる。

然るに從來は佛本國の植民政策の結果として、本國貿易の獨占的地位を確保せんとする差別關稅の障壁に妨げられて、吾國の輸出は殆んど全く閉め出され、織物類の如きも、佛本國の三億七千二百万法(一七〇%)に對して、吾國は僅かに百万圓(一〇・二%)を占めるに過ぎなかつた。幸に新たに成立した佛印協定の結果として、これらの差別關稅が撤廢されたとすれば、織物類に對する吾國の輸出力と佛印の輸入力より見て、佛本國に取つて代るべきものは、吾國でなければならぬ筈である。いま佛印における織物類の重要性を示せば左表の如くである。

第一表 佛印における織物類の輸入 (印度支那外國貿易一覽表  
及ビ印度支那貿易統計月報)

	輸入總額	織物類輸入額	織物類の比率
本港支那支印英美シンガポール	一九三五年 九〇一、四〇二千法	一九三五年 二四六、七四三千法	一九三五年 二七、四%
一九三六年 一七、九〇〇	一九三六年 九七四、七二七千法	一九三六年 三二三、九三三千法	一九三六年 二三、〇%
一九三七年 二、五	一九三七年 一七、九二三	一九三七年 一、五六二、三六五千法	一九三七年 二三、七%
一九三八年 一、六	一九三八年 九、五八二	一九三八年 三七〇、六九四千法	一九三八年 二三、七%
一九三九年 一、六	一九三九年 八、八二一	一九三九年 四二七〇、七〇六千法	一九三九年 二一、〇%
一九四〇年 〇、七	一九四〇年 五、七一	一九四〇年 五三六、〇〇六千法	一九四〇年 二二、四%
一九四一年 〇、二	一九四一年 一、一	一九四一年 一〇、四	

## 二、綿織物の輸入力

佛印の輸入織物類のうち最も重要なのは綿織物であつて、左表に示すが如く、近年は三億法に近く、織物類の50%以上を占めてゐる。この外に入絹とジユートの三種をもつて、九〇%を占めてゐる。従つて織物類の佛印輸出は、吾國としては綿織物・人絹織物に主力を注ぐべきこと言ふまでもない。

	第二表 各種織物類の輸入（印度支那貿易統計月報により算出）						織物類における比率 (右月マテ)
	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額	輸入額	
一九三七年 一千法	一九三八年 一千法	一九三九年 一千法	一九四〇年 一千法	一九三七年 一千法	一九三八年 一千法	一九三九年 一千法	一九三〇年 一月マテ
二〇六四三三	二四五五二三	二九〇九六二	一二四〇一三	二三・七	二八・〇	三四・三	一八・八
八四二九	五三一三	六ニセ一	三四九七	二・三	一・二	一・二	一・二
セ〇六〇〇	ヘ〇四〇	大バ〇一〇	四六三セ三	一九・〇	二〇・四	一二七	一五・六
五八八八	古セ二六	四四九四	二七三九	一・六	一・八	〇・八	〇・九
四四九八	四四六〇	六六三六	二四ヘ〇	一・二	一・〇	一・二	〇・八
大〇〇七一	大五五四三	一三八六九七	一一〇五九九	一・六・二	一・五・三	二・二・八	二・二
一三八二	九八二一	二ニ一九四	六九〇四	三・七	二・三	四・三	二・三

まづ第一に、綿織物の輸入先について見るに、こゝでもまた佛本國は歴倒的であつて、左表に示すが如く、八八%以上を占め、その他の諸國は殆んど言ふに足りない。吾國の如きは全く之に與つてゐない有様である。

第三表 綿織物の輸入先（一九三七年）

	價額 千法	比 率
佛本国	一八三、〇二一	八八・九%
支那	五、九二七	二・九
泰國	二、三〇八	一・一
香港	二、〇〇四	〇・九
英國	一、六六八	〇・八

次に綿織物の中では、生地ものよりも晒および染色もの、輸入多く、かつ何れもその大部分は佛本國より輸入されてゐる。その詳細なる數

字は附錄第一に掲げられてゐるが、左表にその概數を掲げておく。

第四表 輸入綿織物の種別（一九三九年）

	輸入價額 千法	比率 %	佛本國の占める比率 %
生地	三七、一六二	一一・八	八四・四
晒布	八六、五七二	二九・八	九九・四
染布	一二五、六六一	四三・二	九六・五

然らば綿織物輸入の將來如何といふに、綿布は土着民族の生活必需品であるから、佛印の經濟開發と文化程度の向上すると共に、ますますその需要を増大すべきことは明らかである。現に最近における輸入增加の傾向には、顯著なるものがある。たゞ之に對しては、佛印國內における自給力如何を考慮せねばならぬ。

一般に工業化の著しく遅れてゐる佛印においては、紡織工業もまた

甚だ幼稚の狀態にあり、近代的大規模工業としては、僅かに東京紡績會社（機械一、三〇〇台、錘數五四、〇〇〇）西貢紡績會社（機械四〇〇台、錘數一〇、〇〇〇）に過ぎず、他方に土人の手になる家内工業的の綿布工場は、輸入品の壓迫をうけて漸次に衰滅の傾向にある。それ故に佛印の綿布自給力は、近き將來において確保されることは殆んど困難であつて、需要の大部分は依然として之を輸入に仰がねばならぬ状態にある。

### 三、人絹織物の輸入力

人絹織物は年々七千万法乃至八千万法の輸入をなし、織物類中の約二〇%を占めるに至つた。綿織物と同じく主として土人の服飾品であるから、土人生活の向上と共に、増加の傾向にあることは疑ひ得ない。人絹織物中には、クレープ（生地・晒・染色）、ビロード、シヤツ、布地、密織物（生地・晒・染色・加工等）その他を含んでゐるが、そ

の大部は密織物である。いま人絹織物の主なる細別をよび佛本國江  
りの輸入率を示せば左表の如くである。

第五表 人絹織物の種別（一九三九年）

人絹織物	價額 千法	全体に對する比率 %	佛本國より輸入の比率 %
一、密織物	六八、〇一〇	一二・七	九九・二
晒・染布	四二、五〇五	六二・五	九九・六
加工布	三七、五二三	八八・三	九四・三
二、クレープ	三、七二四	八・七	一一・三
晒・染布	一九、四三一	二八・六	一〇・九
加工布	一五、五九三	八〇・四	九四・三
三、ピロード	二、一一八	一〇〇・〇	一一・三
無地	一、五二一	二・二	一一・三
四、帽子・靴下・シャツ類	一、二三六	八〇・九	一一・三
布地	三、七八九	一〇〇・〇	一一・三
三、五八〇	五・六	九九・七	一一・三
	九四・五		

即ち一九三九年においては、人絹織物は全織物輸入中の一二・七%  
を占めて六千八百万法に達するが、その中の六二・五%即ち四千二百  
五十五万法は密織物であり、そのまた八八・三%は晒・染色ものをもつ  
て占められ、その九九・二%は佛本國より来るものである。之に次いで  
重要な人絹織物はクレープで二八・六%を占め、その八〇・四%は  
晒・染色ものであり、その九九・六%は佛本國より輸入されてゐる。  
人絹織物はこの二種をもつて全体の九割以上を占め、その大部分は佛  
本國より來たものである。ことに人絹織物は、綿布および絹布と異り、  
國內生産力を全く缺いてゐるから、將來増加すべき需要の全部は、之  
を輸入に仰がねばならぬわけである。

人絹輸入の詳細なる統計は、附錄第二を参照されたい。

#### 四 ジュート織物の輸入力

佛印の輸入織物のうち最も特異のものとして、ジュート織物を擧げ

ねばならぬ。ジューント（黄麻）は絲・布・袋として輸入せられ、米の輸送に用ゐられる麻袋となるものであるから、佛印にとつては最も重要な生産用品である。

吾國はジューントの輸出能力を有しないから、わが輸出貿易の見地からは重要ではないが、併し米の輸入確保の上から、また中經貿易の上から、殊に佛印における最も有望なる國內企業である點から、ジューント輸入力の検討をなすことは無意義でない。

一九三九年におけるジューント織物の輸入は、一億三千八百万法以上に達し、綿織物に次いで輸入織物中の第二位を占め、輸入織物の二五%に達してゐる。ジューント織物の大部分は、ジューント袋をもつて占められ、一九三九年において一億三千五百万法すなはちジューント輸入の九八%を占めてゐる。そのうち九九%までは空袋として輸入せられ、そのまた九六%までは新袋であつて、古袋は殘余の四%足らずに過ぎない。

ジューント輸入につき最も注意すべき事實は、その輸入先である。他の諸商品とは異り、ジューント輸入の大部分は、シンガポール・香港・印度等の東洋諸國より來り、フランス本國より來るものは、極めて少部分を占めるに過ぎない。この點に於てジューント輸入は、佛印輸入における著しき例外をなすものである。詳細なる數字は附錄第三を参照されたい。

佛印の織物輸入については、綿織物・人絹織物・ジューント織物の外にも、年額約六百万法に達する絹織物、四百万法を超ゆる交織織物、六百万法に達する麻類織物、二千數百万法に及ぶ毛織物等がある。是等の各々につき詳論することは別編にゆづり、こゝではたゞ附錄として、是等の織物に關する最近の輸入統計を掲げてやくに止める。

附錄第一、佛印の綿織物輸入表

輸入先	價	額 (千法マテ) 七月	數	量 (百担) 七月	綿織物			
					一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年
<u>(一) 木綿織 (純又ハ混)</u>								
(1) 生地	全輸入	二〇六四三	二四四三三	二九〇九一	一一七〇一	七五〇一〇	八〇七二九	九六六五三
支那	全輸入	一九四四八	二二六三三	二七七七三	一九〇一七	七〇〇一四	七〇〇一〇	九〇一三一
香港	全輸入	一九一九二	四七四四七	三七一六二	一七一〇八	〇二四一〇	一〇九三一	一〇九三一
印度	フランク	一九九二一	三六六〇四	三一三三八	七七六五	六九七四	一〇〇一〇	一〇〇一〇
日本	支那	一	一	一	一	一	一	一
泰國	支那	一	一	一	一	一	一	一
ボルマール	支那	一	一	一	一	一	一	一
日本	支那	一	一	一	一	一	一	一
印度	支那	一	一	一	一	一	一	一
其他	支那	一	一	一	一	一	一	一
总计	支那	一	一	一	一	一	一	一



(6) ゴム引練  
ソノ他全輸入  
フランス泰  
ラ

## (7) 染糸製布

全輸入  
フランス英  
国

香港

印度

泰  
国

他ノアジア

全輸入  
フランス

他ノアジア

全輸入  
フランス

其他

(8) 涤染布、  
ハンケチ  
其他

他ノアジア

全輸入  
フランス

他ノアジア

全輸入  
フランス

其他

全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス(2) 型  
附(1) 製本裝釘  
用型附ナシ(3) 透シ附  
下塗附布ズ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス其  
他全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス

(2) 塗附裏地

(1) 透シ附  
下塗附布ズ(3) 透シ附  
下塗附布ズ全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス全輸入  
フランス

英國

スイス

香港

日本

泰  
国ボル  
ガ全輸入  
フランス全輸入  
フランス



(5) 寢台幕用  
ツル織

全輸入

フランス

印度

泰

日本

英

フランス

印度

泰

日本

印度

泰







		泰		印	
		泰	法	印	度
(2) 其他	(1) 木綿 加純又り 糊工又ハ 付又ハ ケハ混ン	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入
全輸入	全輸入	支那	香港	泰	法
フランス	フランス	フランス	フランス	泰	法

〔白熱燈用マーフ	全輸入	印度
〔織機用薄板	全輸入	英國
〔臘引綿布	全輸入	香港
(1) 荷作り用布	全輸入	泰國
(2) 其他	全輸入	獨逸
角塗料付薄布	全輸入	香港

〔小包用紙	全輸入	支那
〔絹製	全輸入	香港
(1) 木綿ソノ他製	全輸入	泰國
(2) 其他	全輸入	香港
〔混合木綿織物	全輸入	支那
(1) 醫療用クレープ	全輸入	香港
〔國鈎 紙	全輸入	支那
〔其 他	全輸入	香港

附錄第二、佛印の入絹織物輸入表

輸入先	價	額 (千法)	量 (百疋)	數		
				一九三七年	一九三八年	一九三九年
人絹織物				一九三七年	一九三八年	一九三九年
(1) クレープ				(七月マダ)	(七月マダ)	(七月マダ)
全輸入	セ〇六〇〇	ヘセ〇四〇	六〇二一〇	九〇三七三	九〇三七三	九〇三七三
全輸入	九〇三九	一四〇六六	一九〇三一	一〇九四八	一〇九四八	一〇九四八
(1) 生地	二一四	八〇〇	九九三	二一〇	三〇〇	九三一
全輸入	フランス	二一四	八〇〇	九九三	二一〇	三〇〇
全輸入	フランス	一〇四二九	一〇四二九	一〇四二九	一〇四二九	一〇四二九
(2) 晒、染布	日本	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
全輸入	支那	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
(3) 加工布	泰國	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
全輸入	日本	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇















## 晒・染布

日本

四九

全輸入

フランス

四四九

四八五

二六三

一七〇

二九六

一九七

二二一

一九八

二八一

支那

二三三

四四〇

一四一

二二一

三九三

九一

二六八

一九九

一七六

一五九

香港

一〇八

一〇一

一六七

四二

二九

九〇〇

一九九

一七一

一五九

一三九

日本

三四七

一一一

一九八

二二一

一九九

一七〇

一四〇

一七一

一五九

一三九

## 加工布

全輸入

二三一

一四四

一八一

一七一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

泰國

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

## 捺染布

全輸入

二三一

一八一

一八一

一八一

一八一

一八一

一八一

一八一

一八一

一八一

全輸入

二三一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

一九一

支那日本泰國

二七一

一〇一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

輸入先	價額(千法)			數量(百疋)		
	一九三七年	一九三八年	一九三九年	(七月マ) 一九三七年九月八年一九三九年	(七月マ) 一九三七年九月八年一九三九年	(七月マ) 一九三七年九月八年一九三九年
交織織物						
(一) クレープ	全輸入	四六三	二六五	六三九	一〇四	四〇
(山) 粗布	全輸入	一	三五	六〇	一五六	三三
(2) 晒・染布	全輸入	三九七	一五六	七〇五	一一	一〇
(3) 加工布	全輸入	二九七	一五六	六八〇	一四四	一〇
(4) 摽染布	全輸入	一六	七二	八	一四一	一〇
(2) 無地ツル織	全輸入	五〇	一	一	一	一
	全輸入	一	一	一	一	一
	全輸入	九	一	一	一	一

附錄第五 佛印の交織織物の輸入表

(八) 帽、靴下・シャツ類	全輸入
(1) 手袋	全輸入
趣向ナシ	全輸入
(2) 布地	全輸入
趣向アリ	全輸入
趣向ナシ	全輸入
(3) 靴下・ショート	全輸入
趣向ナシ	全輸入
趣向アリ	全輸入

(四) ピロード	(1) 無地	全輸入
(2) 加工布	全輸入	フランス
(五) 薄目織	全輸入	
(1) 粗布	全輸入	
(2) 団染布	全輸入	
(3) 加工布	全輸入	
(4) 摩染布	全輸入	
(六) リボン	全輸入	
(七) ピロード	全輸入	
(2) ソノ他	全輸入	
(七) レース	全輸入	
(1) 機織	全輸入	

## 四ビロード

(4) ソノ他 趣向ナシ		全輸入		全輸入		全輸入		全輸入		全輸入		全輸入		全輸入		
		フランス	二九	二六	二六	一	六	四八〇ハ	二〇七六	四四三四	一	一	一	一	一	一
(九) 密織物	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	
(1) 粗 布	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本
(2) 染、染布	フランス	二九四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四
(3) 加工布	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本
(4) 摘染布	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本	支那	日本
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入

附錄第六、佛印の麻類織物輸入表

輸入先		價額(千法)		數量(百疋)													
亞麻・麻・ラミー織物	全輸入	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	(七月マテ)	(七月マテ)	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九三七年	一九三八年
(1) 麻織又ヘラミー織物	全輸入	四四九ハ	四四六〇	六六三六	六四八〇	二〇〇	二〇八一	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三
(1) 無地又ハ加工布	全輸入	七一五	九八四	一六六一	一七〇三	三六九	三八六	三六九	三八六	三八六	三八六	七三四	七三四	七三四	七三四	七三四	七三四
粗 布	全輸入	六三九	九六八	一七七八	一七九	大七九	一七九	大七九	一七九	大七九	一七九	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三
西、水彩練布	全輸入	三七五	六七八	三八九	五四七	二二七	二八七	二二七	二八七	二八七	二八七	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三
捺染染・又ハ 加工布	全輸入	一六四	一七二	一九一	一七七	一八六	一九八	一八五	一九八	一八五	一八五	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一
(2) 夜具又ハ家具 用綿子布	全輸入	一六七	九五	一六四	四五五	七六	七五	七五	七五	七五	七五	一二一	一二一	一二一	一二一	一二一	一二一
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

粗布	全輸入	フランス
(2) 夜具又ハ家具 用綿子布	全輸入	フランス
工布	全輸入	フランス
擦染・染又ハ加 工布	全輸入	フランス
粗布	全輸入	フランス
(2) 夜具又ハ家具 用綿子布	全輸入	フランス
粗布	全輸入	フランス
晒染布その他	全輸入	フランス

粗布	全輸入	フランス
(3) 敷食卓布	全輸入	フランス
粗布	全輸入	フランス
(4) 雲齋布	全輸入	フランス
粗布	全輸入	フランス
晒染・染・晒布全輸入	全輸入	フランス
晒染・染・晒染布全輸入	全輸入	フランス
(1) 純亞麻織	全輸入	フランス
(1) 無地又ハ加工布全輸入	全輸入	フランス
粗布	全輸入	フランス
晒染・染・晒染布全輸入	全輸入	フランス
(2) 純亞麻織	全輸入	フランス
(1) 無地又ハ加工布全輸入	全輸入	フランス

(1) 象眼ナシ 全輸入	一三三
(2) 象眼アリ 全輸入	一二九
(3) 盤 布 全輸入	二二〇
(4) 象眼アリ 全輸入	一二九
(5) 象眼ナシ 全輸入	一三三
(6) 象眼アリ 全輸入	二二〇
(7) 劇場等裝飾用布 全輸入	一三三
(8) 飾紐・リボン・サングル等 全輸入	一二九
(9) 祖父ハ染直シ紐 全輸入	一九一
(10) 染紐 獨逸	一九一
(11) 染紐 全輸入	一九一

(1) 紋織食卓布 粗 布 全輸入	一七七
(2) 霧齋布 粗 布 全輸入	一七七
(3) テース用特殊亞麻、全輸入 麻 全輸入	一七七
(4) 蠟引布 晒染、染、晒布全輸入	一七七
(5) リノリウム 全輸入	一七七
(6) テーブルクロス 全輸入	一七七
(7) テーブルクロス 全輸入	一七七
(8) テーブルクロス 全輸入	一七七
(9) テーブルクロス 全輸入	一七七
(10) テーブルクロス 全輸入	一七七
(11) テーブルクロス 全輸入	一七七
(12) テーブルクロス 全輸入	一七七
(13) テーブルクロス 全輸入	一七七
(14) テーブルクロス 全輸入	一七七
(15) テーブルクロス 全輸入	一七七
(16) テーブルクロス 全輸入	一七七
(17) テーブルクロス 全輸入	一七七
(18) テーブルクロス 全輸入	一七七
(19) テーブルクロス 全輸入	一七七
(20) テーブルクロス 全輸入	一七七

(九)縁無シ帽子	全輸入	一四	四	七	一	一	一	一	一
(十)レース・透シレース	全輸入	一	一	六	一六	二	一	一	一
(十一)家具用ビロード	全輸入	六	六	一六	一六	二	二	二	二

フランス

セモ

二八

四〇

四六

二五

六

一〇

一〇

一〇

附錄第七、佛印の毛織物輸入表

輸入先	價額(千法)	数量(百疋)			輸入年
		一九三七年	一九三八年	一九三九年	
<b>毛織物</b>					
(一)衣服用純毛布	一〇三六二	六八五	二三一九四	六九〇四	一九四〇年
(1) 一平方米ニツキ 二五〇瓦以下	四七三三四	二〇〇八	八一〇	一九五	一九三七年
全輸入	四〇九六	八八五	四七九二	一一大九	一九三八年
フランス	六五〇	一〇八	三五四	一〇	一九三九年
英國	〇	三	〇	一	
(2)二五一瓦—四〇瓦	四三三七	四〇六	一三八	一九〇九	一九三七年
全輸入	四〇一四	三九一〇	貳八八一	一八五	一九三八年
フランス	二九七	一一三	二四四	二六	一九三九年
英國	一九一	六四六	一六一七	二九二	
(3)四〇瓦以上	四六三	一九九二	二九三	二三八	一九三七年
全輸入	二〇四	六六三	一九九二	二一七	一九三八年
フランス	二三八	一九九二	二九三	二一七	一九三九年

英國  
フランス七七  
二八四〇  
四六一六  
一五一〇  
一〇

- (1) 小アジア産毛織  
(2) メリンス  
(1) 粗 布  
(2) 染、染布ソノ他

(4) 家具用純毛布

(1) シュマツク、ケリム、カスマニ種  
(2) ソノ他

- (5) 毛氈 (純又ハ混)  
(1) 結玉ツキ  
(2) 笠縁ツキ

	英國	フランス	香港
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入

	(3) ジャカード製	香港
全輸入	全輸入	全輸入

	(4) 無地又ハ捺染 ビロード状	香港
一	一一一	一一一
一一	一一一	一一一
一	一一一	一一一
一一	一一一	一一一

	(5) ソノ他	香港
一一	一一一	一一一

	(6) 純毛又ハ混毛頭巾、 靴下、シャツ類	香港
一一	一一一	一一一

	(1) 布 地	香港
一一	一一一	一一一

	單 純 編	香港
一一	一一一	一一一

趣向アリ

78

(1) 純毛	趣向アリ	一キロ以上	全輸入	フランス
(2) 組物及ビリボン	趣向アリ	一キロ以下	全輸入	フランス
(3) ソノ他	趣向ナシ	一キロ以下	全輸入	フランス
(4) ソノ他	趣向ナシ	一キロ以上	全輸入	フランス
(5) 手袋	趣向ナシ	一キロ以上	全輸入	フランス
(6) 複合編	趣向ナシ	一キロ以下	全輸入	フランス
(7) 片面織	趣向ナシ	一キロ以下	全輸入	フランス
兩面織	趣向ナシ	一キロ以上	全輸入	フランス

(3) 靴下、ショウセツト		(2) 手袋		複合編	
趣向アリ	趣向ナシ	趣向ナシ	趣向ナシ	全輸入	全輸入
一キロ以下	一キロ以上	一キロ以下	一キロ以上	全輸入	全輸入
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入
フランス	フランス	フランス	フランス	フランス	フランス
△類	A類	△類	A類	△類	A類
趣向アリ	趣向アリ	趣向アリ	趣向アリ	趣向アリ	趣向アリ
全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入	全輸入
フランス	フランス	フランス	フランス	フランス	フランス



## (8) 醫療用クレープ

(4) ソノ他

全輸入	一	六	四	八	一	一	一	一	一
全輸入	一	二	一	三	一	一	一	一	一
フランス	一	四	七	二	一	一	一	一	一
英國	一	四	七	一	一	一	一	一	一
	一	四	七	二	一	一	一	一	一
	一	四	七	二	一	一	一	一	一
	一	四	七	二	一	一	一	一	一
	一	四	七	二	一	一	一	一	一
	一	四	七	二	一	一	一	一	一
	一	四	七	二	一	一	一	一	一

昭和十六年九月五日印刷  
 昭和十六年九月十日發行  
 發行者 東京市神田區駿河臺二ノ一  
 著印刷者 東亞研究所内  
 印刷所 伊藤  
 東京市神田區駿河臺二ノ一  
 法人財團 東亞研究所  
 發行所 東京市神田區駿河臺二ノ一

90421  
186

X

# 2687

0